

## 会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第2回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開 催 日 時	平成29年8月29日(火) 13時30分～15時00分
開 催 場 所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について(対象：平成28年度実施事業) (2)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組拡充について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、三井委員、三宅委員、宮本委員、森山委員、吉田委員、木村委員、竹内委員、糸委員、菅原委員、寺嶋オブザーバー
傍 聴 者	0人 (定員5人)
担当課および連絡先	政策課 (839-2135)

### 会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

#### 議題(1) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について(対象：平成28年度実施事業)

(会長)

「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について(対象：平成28年度実施事業)」を、事務局から説明いただきたい。

【資料1、2により事務局から説明】

(会長)

資料2の4「国内誘客促進事業」では、KPI「市内の主な観光施設等の利用者数」の平成35年度の目標値が平成28年度の実績値を下回っている。第1回会議において、委員から、今後の人口減少を考慮し、この目標値で良いとの意見があったが、今後、もう少し目標値を上げてよいのではないかと思う。

資料2の5「観光プロモーション事業」では、連携市町評価の理由の欄に「実績なし」等とあるにもかかわらず、東かがわ市の評価がAとなっているのは何故か。

(事務局)

高松市の設定した評価方法では、KPIを設定していない事業は、実績は考慮せず、事業の有効性、妥当性のみで評価することとなっている。また、有効性、妥当性の評価についても、高松市の設定する基準に基づき評価している。

## 会議経過及び会議結果

(委員)

観光施策については、当然、各市町において独自事業を実施していることもあり、評価の対象とする事業の捉え方に差があるのではないか。

(会長)

高松市と連携市町とが協議した上で評価を行なえば、評価の精度が上がるのではないか。

(事務局)

連携中枢都市圏としては、今回が初めての評価となる。評価の基準・観点については、各市町にお示ししているが、やはり捉え方に差があるのが状況だと思う。来年度以降の評価においては、この差がなくなるよう情報共有等に努めていきたい。

(委員)

資料2の9「新たな観光プランの企画、販売等」については、高松市の担当は観光交流課であり、実際に事業を進めるのはコンベンションビューローですが、それぞれの担当に連携市町に対する熱意がないということが連携市町の評価につながっているのだと思う。

また、資料2の8「瀬戸内国際芸術祭推進事業」では、高松港から、あれだけ多くのお客さんを直島へ送り出して、高松港では、朝から夜まで一生懸命に直島の状況を説明していたにもかかわらず、直島町の評価はDとなっている。これは、お互いが分断されていて、顔が見えていないからだと思う。

高松市と連携市町の観光の担当者が集まる機会を設けるなど、ネットワークを作っていかなければ、今後も評価は変わらないのではないか。

(委員)

高松市では、K P I の達成度により高い評価になっているにも関わらず、連携市町で評価が低い理由の1つは、都市圏ビジョンの制度を十分に認識できていない担当課があるためだと思う。全課に対して都市圏ビジョンの趣旨が適宜・適切に伝わるようにしていただきたい。

(委員)

民間会社ではK P I を設定する場合、事業の推進に当たっての強弱についても考えるが、それができていないのではないかと感じる。高松市がリーダーシップをとって引っ張っていけば達成できる事業も多くあるので、高松市と連携市町で事業の強弱を考えていけばよいのではないか。

(会長)

連携事業ということですので、高松市が引っ張っていく一方で連携市町の意向を尊重することも必要だと思う。

今回の評価によって、取組の評価の高い事業と低い事業が明確になった。今後の人口減少を考えれば、連携事業としては交流人口を増加から観光の分野などが重要になる。こういった分野において、高松市と連携市町の担当課が一緒に議論していくことが連携事業の率を高めていくことにつながるのではないかと思う。

また、次年度以降の評価において、評価の精度を上げていくためには、同じ取組をしているにもかかわらず、B評価とC評価があるようなことがないような調整も必要である。

さらに、資料2には、連携市町の貴重な意見も記載されている。例えば

連携市町がD評価とした事業の中にも、連携市町評価の理由の欄には、今後の取組に前向きな意見が記載されているものもある。このような事業については、高松市が引っ張っていけば良い。今後、事業を進めていく上で、評価の理由欄も参考にさせていただきたい。

今回の評価では、今後の連携事業の推進のための良いデータがとれたと思う。これを契機にさらに連携事業の取組を進めていただきたい。

## 議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組拡充について

（会長）

「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組拡充について」を、事務局から説明いただきたい。

### 【資料３により事務局から説明】

（委員）

資料３の２「国内外観光客向け情報発信事業」の高松市の回答に「民間の情報を発信することは、公平性の面から課題が残る」とあるが、伝統工芸等は公共の財産であることから、民間の情報ということにとらわれず、PRを進めていただきたい。

（事務局）

その件については、検討してもらうよう担当課に伝える。

（委員）

今後、新しい民泊法の下での民泊の活用が重要になってくる。これまでの観光部門だけでなく、空き家の民泊への利活用、民泊の許認可に係る部門も含めて連携を進めていく必要がある。

（事務局）

高松市では、空き家対策の計画としては、危険家屋の対策と利活用の二本立てとなっているが、危険家屋としての対処に傾注しているのが現状で、利活用については、今後、部門間での調整が必要になってくる。

空き家に関しては、まちづくり全体の中で住宅政策としての利活用の方向も考えられるし、観光資源の面からゲストハウスとしての利活用も考えられる。良いヒントをいただいたので、今後、どのように行政として関わりをもつか検討したい。

（会長）

観光分野で連携事業として、SNSによる情報発信を支援する形が取り込めないかと思う。

（委員）

SNSについては、ある程度の高齢者も地域の情報発信ができるように、初歩的な講習会を行政に開催してもらえないか。

（事務局）

生涯学習推進事業として、連携市町との枠組みを持っていることから、生涯学習センターで対応できるかどうか関係課と協議していきたい。

（委員）

かかりつけ医は地元（連携市町）にあるが、高松市内に通勤している場合、高松市内の病院で各自治体の行う健診を受診できるようにならないか。

（事務局）

各市町がそれぞれで実施する事業だとは思うが、御意見として関係課に確認してみる。

（委員）

福祉関係の事業に評価が低いものが多いことについては、それぞれの地域では一生懸命に取り組まれているが、連携事業としての取組となると難しい面もあるからだと思う。

一方で、教育・スポーツ分野の事業については、今後のこども未来館や屋島競技場の活用などに期待が持てるし、トップスポーツの観戦は、未来につながる良い連携事業ではないかと思う。

（委員）

政策コンテストについては、中学生が興味を持ってきている時点でありがたいことだと思う。今は高松市だけの取組だが、今後、広域連携というトピックを入れての実施について、可能な範囲で検討していただきたい。

（委員）

観光施策に携わってきた経験上、地元の人が訪れないような観光地は、観光地とは言えないと考えている。この点からも、地域内交流の活性化が重要だと考える。

（委員）

いくら技術が進んでも、常に人と人が顔を見られる関係づくりが大切である。誰のための、何のための政策であるのかを常に考えて進めていただきたい。

（オブザーバー）

香川県の人口・面積の6割を占める本圏域の発展は、県全体の発展につながると考える。本日の懇談会委員からの貴重な御意見については、県の施策にも反映していきたい。

### 議題（3）その他

（会長）

その他について、事務局から説明していただきたい。

【（資料なし）今後のスケジュール等について事務局から説明】

（会長）

以上をもって、本日の懇談会は終了する。